

- ▶ 千葉市は、森林所有者の自助努力によって整備が期待できない森林について自然災害等による施設被害を未然に防ぐため森林等の安全対策に取り組んでいる。
- ▶ 令和5年度は特殊地拵え3.47ha、植栽3.41ha、下刈4.04haの森林整備を実施した。

□ 事業内容

森林整備（特殊地拵え・植栽・下刈）の実施

・ 特殊地拵え

台風等の被害森林で被害木を含めた立木を皆伐、枝葉等を整理し植栽やその後の保育を実施するための基盤整備

・ 植栽

特殊地拵え施業地において、原則2年以内に苗木（ナラ・クヌギ等）の捕植

・ 下刈

植栽施業地において、植栽木の生育に障害となる雑草木の刈払い

【事業費】 27,316千円（うち森林環境譲与税14,184千円）

【実績】 特殊地拵え：3.47ha、植栽：3.41ha、下刈：4.04ha

□ 取組の背景

- ・ 千葉市では、令和元年台風15号により、風倒木が周辺の道路や電線等（以下「重要インフラ施設」）に被害を与え、大規模停電の発生や重要インフラ施設の早期復旧の妨げとなった。
- ・ 自然災害等による施設被害を未然に防止するとともに、既に自然災害等により被害を受けた森林について、風倒木の残地による病害や二次被害を防ぐため、令和2年度から優良森林整備事業を実施している。



（地拵え前の状況）



（地拵え後の状況）

□ 工夫・留意した点

- ・ 森林の管理は原則森林所有者の責務であるが、森林の伐採等の管理は費用負担が大きいことから、国・県の補助事業の活用や市の補助事業で実施することで、森林所有者に負担のかからない枠組みで実施した。
- ・ 森林所有者と協定や覚書を締結し、事業実施後10年間は転用を認めず、下刈等を実施することで適正な維持管理を行う。

□ 取組の効果

- ・ 特殊地拵え3.47ha、植栽3.41ha、下刈4.04haを実施し、過去の災害により被害を受けた森林の早期復旧と、今後発生し得る災害によるインフラ施設等への被害の未然防止のための森林整備に寄与した。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：116,324千円	②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 千葉市は、「千葉市内の公共建築物等における木材利用促進方針」を策定し、地域産材を利用した木質化等の取組を推進している。
- ▶ 千葉市農政センター内にある旧管理人詰所の内装を木質化した。

□ 事業内容

内装木質化

- 千葉市農政センター内にある旧管理人詰所の一部について、千葉県産木材（スギ材）を活用し内装の木質化を実施した。

【事業費】2,970千円（うち森林環境譲与税2,860千円）

※譲与税は、木材費や木質化に係る部分に充当

【実績】旧管理人詰所内の壁・床一式

□ 取組の背景

- 千葉市では、「千葉市内の公共建築物等における木材利用促進方針」に基づき、地域産材を利用した木造化・木質化等を促進することにより、市民にやすらぎとぬくもりのある健康的で、快適な公共空間を提供するとともに、循環型社会の構築や地球温暖化の防止、林業・木材産業の振興、森林の再生などに資する取組みを推進している。
- 千葉市農政センター内において、研修生の自習スペースやアグリテック企業との打ち合わせスペースとして利用できるよう旧管理人詰所の一部を整備する。



（施行前）



（施行後）

□ 工夫・留意した点

- 使用する木材へ、県産木材（スギ材）を使用した。
- 森林環境譲与税を活用した事業であることが分かるよう木質化を実施した室内へ表示板を設置した。

□ 取組の効果

- 県産木材を使用したことで、県内の森林整備の促進に寄与した。
- 県産木材を使用していることが分かるよう表示、周知することで森林環境譲与税事業の普及啓発に寄与した。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：116,324千円	②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 千葉市では、子どもたちとその親世代への森林の健全な育成や温室効果ガス削減のための吸収源整備についての普及啓発と、幼少期からの木育活動の推進を図るため、令和6年2月に泉自然公園で新たな栽培スキームを活用した植樹体験を開催した。

□ 事業内容

植樹体験

- ①講演：植樹（森林の健全な育成）の重要性、泉自然公園で植樹を行う意義等についての簡単な講演
 - ②植樹：公園内で育てたどんぐりから育った苗木を掘り取り、公園内の別の場所に植樹する。
 - ③栽培：市が用意したどんぐりから育った種苗を持ち帰り、自宅で育ててもらい、次年度以降、育った苗木を公園で植樹することで、森林の健全な育成を図る。
- ・【事業費】456千円（全額森林環境譲与税）
 - ・【実績】17組50名参加（申込件数55組187名から抽選）

□ 取組の背景

- ・ 令和3年9月 国内外における環境教育を取り巻く状況が変化していることを踏まえ、持続可能な社会の実現に向けて、木育などの施策を盛り込んだ「千葉市環境教育等基本方針」を新たに策定し、環境教育等の推進に取り組んでいる。
- ・ 令和5年3月に策定した「千葉市地球温暖化対策実行計画」における取組の一つとして位置づけている。



（植樹体験開催時の様子）

□ 工夫・留意した点

- ・ 参加者には、市が用意したどんぐりから育った種苗を自宅で育ててもらい、次年度以降、育った苗木を持ち寄り公園で再び植樹を行い、森への愛着を一層持ってもらい、新たな栽培スキームを取り入れた。
- ・ 地域木材利用の促進として、千葉県産の材木を使用した木製の参加証を参加者へ配布した。



（木製の参加証）

□ 取組の効果

- ・ 参加者へのアンケート結果より、「なかなかできない体験で子ども・保護者にとっても有意義であった」、「どんぐりを自宅で育て、それをまた植樹するというサイクルがよい」、「脱炭素に向けた取組として、次世代に繋がれるとてもよいイベントだった」といった感想があり、子どもたちだけでなく、親世代への森林整備の重要性についての意識醸成のきっかけ作りとなった。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：116,324千円	②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 千葉市は、森林ボランティア団体が参加実施する人材育成研修に対し支援しており、市民参加による森林の保全管理の推進に取り組んでいる。
- ▶ 令和5年度は林内作業車の取り扱いに係る研修（車両系走行集材機械の運転業務に係る特別教育）に対する支援を実施した。

□ 事業内容

森林ボランティア推進事業

- ・ 市民の森林に対する保全意識の高揚を図るとともに、市内の里山を中心とした森林の保育管理に市民が参加できる体制にするため、基礎知識の習得や知識の提供を行うことにより、市民参加による森林の保全管理を推進する。【事業費】200千円（全額譲与税）
【実績】5名参加

□ 取組の背景

- ・ 森林ボランティア団体においては、会員の高齢化と会員数の減少が課題である。
- ・ チェーンソーや刈り払い機などを用いた本格的な森林整備作業を目指す会員の確保に向けて、千葉市では令和2年度から森林ボランティア団体が参加実施する人材育成研修について支援している。



（研修開催時の様子）



□ 工夫・留意した点

- ・ 森林ボランティア団体会員の人材育成を図るために、令和2年度に「千葉市里山の保全管理団体報奨金交付要綱」を改正し、各種研修に係る参加経費を助成対象とした。
- ・ 当該事報奨金の活用について、ボランティア団体の各種イベントや会議等の場でPRに努めた。

□ 取組の効果

- ・ ボランティア団体の新規会員を中心に研修会に参加した結果、伐倒作業技術や作業時の安全意識の向上を図ることができた。
- ・ 民有林整備（間伐等）の担い手として、林業事業者（千葉市森林組合）との連携強化を図ることができた。

◇ 基礎データ

①令和5年度譲与額：116,324千円	②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より